

消費者ネットワーク

2005年5月1日

第95号

全国消費者団体連絡会
発行責任者 神田敏子

TEL : 03-5216-6024

FAX : 03-5216-6036



消団連とこのごろ

「99.9%」という数字はどういう時に使われるだろう。あえて「100%」と言わないところに、信憑性や逆に胡散臭さを感じさせる数字である。ケースバイケースだが、テーマによって正反対の印象を与えるから不思議である。

例えば、「公立の小、中、高校における卒業式、入学式の国歌斉唱と国旗掲揚の実施率は、99.9%である」という時の「99.9%」は、何の味も素っ気もない算数的に割り出した数字である。金属の純度も「99.9%」という数字を使う。PURE・METALSは金も銀も、プラチナや銅、鉄も純度は99.9%である。100%と言わないところに正確さ誠実さを感じさせる。他に「電磁波99.9%カットの機能性エプロン」というのがある。高速道路の自動料金収受システムにも活用されている電波吸収体を使っているという。それにしてもここまで正確に計量できるのだろうか。性能に優れているということ表現したいのだろうが、少し怪しさを感じさせる。更に、京都には、本人の運勢を99.9%把握して、99.9%当たる占い師がいるという。ここまで来ると、胡散臭さの最たるもので、さすがに本気で信じる者はいないだろう。

さて、先日、BSE問題について「米国農務省公使団と消費者団体との意見交換会」が行われた。そこでもこの数字が何度も繰り返された。米国の飼料管理基準の遵守率は99.9%だというのである。今年2月に、会計検査院から「飼料規制に弱点があり、BSE拡散のリスクにさらされている」と指摘されたばかりであるが、それを指摘しても「多くの農場を検査しているので99.9%といえる」と言い切る。米国には100万も農場がある。その99.9%というのだから、かなり驚異的である。相当な信頼できる裏づけがない限り、それを素直に信じるわけには行かないし、日本の消費者はそんなにお人よしではない。それどころか、かえって不信感を増幅させるだろう。

「京都の占い師」とまでは言わないが、どっちもどっち、到底信じられる数字ではない。

もくじ

消団連とこのごろ	・・・p.1
食をめぐる動きについて	・・・p.2
独占禁止法改正・第162回国会でついに成立	・・・p.4
生命保険学習会を開催	・・・p.5
21世紀は環境の世紀～PRTRデータが公表されました～	・・・p.7
国際消費者機構が、公正な貿易のルールづくりの取り組みを呼びかけました。	・・・p.8
会員団体の活動紹介・訃報	・・・p.10
お知らせ・編集後記	・・・p.12